

混浴温泉で従業員の女の子とエッチ サウナで汗を流した後に・・・

ヒロキは家から持参の白い小さなフェイスタオルを持って受付の前までやってきた。自販機の横の窓から外の美しい庭が見える。古きよき和風旅館風の大きな温泉。過去に一度都道府県別の温泉ランキングで選出され賞を取ったこともある天然温泉だ。

自販機で購入した100円ちょっとのカミソリとハブラシを持って温泉内へ。

「あっ！！」

ヒロキは間違っって女の脱衣所の方へ入ろうとしてしまう。週毎に男女の風呂の入れ替えをしているのがその理由だった。

ここは混浴だがそれは露天風呂のスペースのみ。男風呂女風呂はそれぞれ分かれている。大きな露天風呂には広いサウナとその前に水風呂が設けられており、この温泉で特に人気の区分である。男女が分け隔てなくそこで汗を流す。若い男女たちはそこで自分たちのピチピチで健康的な肉体を

見せつけ合うのだ。わざと見せてはいない、ということを繕（つくろい）いながら、女子はお尻や胸部、男子は自慢の子はその鍛え上げられた肉体美を、そして太ももまで垂れ下がったふっといペニスを。女子たちはなんとなくそれとなく隣にいる子とキャピキャピと会話しながら、男子たちのペニスをチラ見する。

「へえー、いいの持ってるじゃん・・・食べてみたいかも」

などと思いながら、場合によっては小声で会話しながら。

男子たちはそれに気づき、時と場合によってはペニスを反り立てる。

女子たちに勃起して腹筋にピクピク当たったペニスを見られるというのは、とても刺激的なものなのである。

白い縁取りをしてあるスモークの塩ビ板の引き戸を開けると、清掃のバイトの女の子と対面。ヒロキは少しよけるようにその子とすれ違った。

少し時間が経ち、その子の顔が赤くなっていたのをなんとなく思い出したヒロキ。

「俺のがちょっとデカすぎたのかな？巨根にびっくりしてる??」

目は三日月の弧の膨らみを上に向けたようににやついていた。

きっと従業員の子も、激しく濃密なエッチに飢えているに違いない。

俺の巨根が欲しいのだろう、そう思った。

少し気になったが、気持ちを切り替え中へ。

混浴の露天風呂には、人目を気にせず裸で羽を伸ばす男女たちがいた。

パイパンの女の子も多く、時代を感じるヒロキ。

むにゅむにゅっ！！と若いピチピチの左右の太ももを前に進めるたび、

無毛の割れ目がいびつに形を変える。その細部まで見える。

男子たちはそれをチラ見してそ知らぬ顔で通り過ぎる。

髪をかき上げると、二の腕の根元の脇もしっかり見える。

お年寄りもチラホラ見えたがほとんどは若い子たち。ヒロキも存分に楽しもうとひとまずさっと岩風呂の湯船に浸かってからサウナへ入ることにした。

————— 体験版は以上になります。—————